



12月市議会 一般質問

乾式貯蔵は本当に安全か

川内原発 使用済み核燃料

質問で浮かぶ不安と限界

九州電力が川内原子力発電所で計画している使用済み核燃料の乾式貯蔵施設について、井上勝博市議は12月8日の一般質問で、安全性と住民説明のあり方を厳しくただしました。しかし、市の答弁は「九州電力から説明を受けた内容の範囲」に終始し、市としての独自判断や踏み込んだ検証は見られませんでした。

「説明は受けた」 「繰り返し返される」 同じ答弁

会や特別委員会で九州電力から繰り返し返し示されてきた説明と同じものでした。

井上市議は、乾式貯蔵容器の「耐震性」「除熱性能」「金属ガasketの安全性」について、市が九州電力からどのような説明を受けているのかを具体的に示すよう求めました。

1300ガルの 超えた場合はどう するの

井上市議は、乾式貯蔵容器が「1300ガルまで耐えられる」とされている点について、熊本地震や能登半島地震ではそれを上回る揺れが実際に起きているとして、「1300ガルを超えた場合の基準や対策を確認しているのか」と重ねて質問しました。

空冷方式と金属 ガasketの長 期リスク

自然対流による空冷方式について井上市議は、通気口の目詰まり、塩害、火山灰など長期的リスクを指摘しましたが、市は「これまでと同じ説明を受けている」と答えるにとどまりました。

また、乾式貯蔵の要となる金属ガasketについても、劣化した場合に交換が容易でなく、内部圧力監視しか確認手段がないという問題が示されましたが、市は「監視体制は確認している」と述べるのみでした。

超える地震への具体的な対応は示されませんでした。

みでした。

核燃料サイクル は国任せでよい のか

井上市議は、「核燃料サイクルは事実上行き詰まっているのではないか」「市は判断を回避しているのではないか」と市の姿勢をただしました。

市側は、国や九州電力に対して再処理工場の早期竣工などを要望してきた経過を説明しましたが、乾式貯蔵の長期化を防ぐという市としての明確な決意は示されませんでした。

(2面へ続く)

恒例のもちつき大会に笑顔あふれる 「薩摩川内後援会、大勢で交流」

日本共産党薩摩川内後援会の恒例行事「もちつき大会」が今年も開かれ、大勢の後援会の皆さんが参加しました。

参加者は、昔ながらの杵と臼を使って力

いっぱい餅をつき、つくたてのお餅と温かい豚汁を味わいました。「やっぱりつくたては違う」「体の芯から温まる」と、あちこちで笑顔と会話が弾みました。あいさつに立った

いっぺい餅をつき、つくたてのお餅と温かい豚汁を味わいました。「やっぱりつくたては違う」「体の芯から温まる」と、あちこちで笑顔と会話が弾みました。あいさつに立った



もちつき大会のようす、杵をついているのは井上市議会議員 (21日、井上市議宅)

こちらの相談所
(No. 634)
携帯 080-3996-0237 (井上)
なんでもご相談ください。

「公園の竹林で、道が一日中じめじめ」
指月ハイソ第2公園周辺の竹林をめぐって、住民の方から相談が寄せられて

いました。こちくらが要望を伝えていました。その後、2025年に入り、南東側の竹林が伐採され、地域からは「明るくなった」「危険が減った」と感謝の声も出ています。しかし一方で、新たな声も寄せられました。南西側の竹林が残っているため、午後になると日が当たらず、道路が一日中乾かない状態が続

2025年もお世話になりました。良いお年をお迎えください。

井上勝博市議は、「高市政権は台湾発言や軍備増強など、危険で怖い政治を進めているが、弱さともろさも抱えている。くらしを守るために日本共

産党を大きくしてほしい」と訴えました。ハーモニカ演奏の披露や、参加者全員で炭坑節などを踊り、会場は一体感に包まれました。

エプロンおばさんの 簡単クッキング (688)



サーモンアボカド丼

材料 (1人分)

サーモン (刺身) 約 200g、アボカド 1個、
温かいご飯茶わん 2杯分、A (しょうゆ・
みりん各大2、すりおろしショウガ 1片分、
ねりわさび適量

作り方

- ①サーモンとアボカドは食べやすく切る。まぜたAに入れて味を絡める。
- ②ご飯を器に盛り、①をのせて練わさび (お好みで) を添える。

(1面から続く)

「いつまで置くのか」不安は解消されず

乾式貯蔵が全国的に長期化している中、井上市議は「永久に置かれるのではないかと、市民の不安にどう対応するのか」と質問しました。

市は「一時保管であり、六ヶ所再処理工場へ搬出する方針」と繰り返しましたが、期限や具体的な見通しは示されませんでした。

誰でも参加できる住民説明会を

地震・津波・船舶事故などの複合災害についても、市は「想定内で安全」とする説明を受けていると答弁しましたが、想定を超えた場合の対応は確認していないことが明らかにになりました。

井上市議は、専門家も参加し、誰でも質問できる住民説明会の開催を強く求めましたが、市は「分かりやすく丁寧な説明を要望している」と述べるにと

どまりました。

問われているのは市の主体性

今回の一般質問で浮かび上がったのは、九州電力の説明をなぞるだけの市の姿勢と、市民の不安に正面から向き合おうとしない主体性の弱さです。40年以上続く可能性のある乾式貯蔵という重大問題に対し、市がどこまで踏み込み、責任ある判断を示すのかが、いま強く問われています。

No. 65



シネマ太郎の映画評と案内

ネタニヤフ

汚職と調書 (2025年)



ネタニヤフ 汚職と調書



チャップリン

葉巻を手に、にらみをきかせたふてぶてしい顔。映画のポスターに写るイスラエル首相、ベンヤミン・ネタニヤフ。76歳。2006年に初めて首相になり、以来、何度かの失脚を経ながら現在まで通算20年、その座にあります。ガザ・イスラエル紛争を伝えるニュースの映像では必死の形相で強気の姿勢を崩しません。映画はこの人が汚職(主に収賄)の疑いで、現職の首相でありながら2016年から2018年にかけてイスラエルの警察で受けた尋問の映像で構成されたドキュメンタリーです。多数の関係者への尋問やインタビューの様子も収録されています。元側近や幼少時からの親友が彼の性格や言動を証言します。「とにかく嘘が上手で、絶対に自分の落ち度を認めない」、「嘘をつき続けるには記憶力が必要だが、彼の記憶力は人間業ではない」。アメリカの大富豪たちとのいびつな関係。便宜を図る見返りに贈られたとされる大量の葉巻、シャンパン。いずれも最高級、超高価なもの。目がくらむような宝石も。報道機関を私物化し、自分をたたえる記事、特に写真に対するこだわり。そして、妻・サラの存在。滑稽な感じを受けますが、彼はたいへんな恐妻家。妻の意向は政治決断や人事にまで及んでいるらしいのです。2019年、現職の首相として初めて起訴され、翌年から裁判が始まり、現在も裁判は続いています。その最中の2023年10月、ハマスによるイスラエル攻撃が起こります。映画ではこの紛争をめぐるネタニヤフ首相の疑惑を関係者が語っています。製作国はイスラエル・アメリカとなつていますが、イスラエルでは上映禁止、アメリカでも一部でしか上映されていないようです。まさに命がけで製作された映画だと思えます。12月12日から天文館シネマパラダイスで上映が始まりましたが、わずか1週間後、12月18日で終了となりました。さて次の気になる映画は、「チャップリン」(25から天文館シネマパラダイス)です。



←中俣先生のブログはこちら

中俣先生の つれづれなるままに (819)



自治会長をしている。しかし、大世帯の新妹背橋から取り残された、わずか8世帯の小集落のため、会合には出ないし、コミセンの諸行事にもほとんど不参加だ。しかしそれでは、老舗の妹背橋の名前が忘れ去られてしまうと思つて、11月末の文化祭には、詩を出品し、準備、後片付けに小時間ながら参加した。当たり前だが、50代前後の若いパリパリの方々とはほとんど面識がない。同世代前後の人たちはこれまた当たり前だが、顔の見分けがつかないくらいにそれ相応に老いている。だからあいさつもないし、あつても、「おお、元気」くらいで事を済ませてしまふ。そうしたなかで、飛び切り素敵な「かつさん」ということばが耳に響いた。振り向くと、児童クラブでお世話になった保護者のひとみさん。折からの日差しを浴びて、見違えるような美しさ。これでは会つても分らない。「久しぶり」ということばに胸がときめいた。よくぞしよぼついたおじさんに声をかけてくださったと、ああ来てよかったと心から思った。「かつさん」はまだ生きていたのだ。老いと、耳が遠くなったり、歩きが遅くなったりで出不精になりがちだ。しかし外に出ると、きつと何かいいことがある(数日後詩の大賞を頂いた)。私は詩やマルクスの勉強会には、貞子さんの車で出かけている。鹿児島には、エイと気合を入れて電車に乗る。すると、一つ二つはいいことに出合う。みなさんも引きこもりでないで来年も外に出よう。という事で、今年もよいお年を。(詩愛好家)